

教育長賞

支え合うために

毎日のように犯罪を犯した人々のニュースを耳にする。例えば殺人や窃盗などである。私はこれらをテレビで見ると「なぜそんなことをするのか」と怒りを抱いてしまう。また、中高生の身近にあるものとして挙げられるものは、いじめや薬物などだ。もし、私の友人がこのようなことを起こすと今までの私だったらたとえ親しくても関わりたくないと思ひ嫌悪感を抱いてしまったらどう。では、なぜ彼らは犯罪を犯すのだろうかと考えてみた。単なる好奇心などからではないのではないか。貧困であったり頼れる人がいないなどの環境も関係しているはずである。このような状態になると心に余裕が無くなり自分の気持ちや相談を聞いてくれるところもなくなり、ストレスなどがたまりやがて爆発し、犯罪を犯すことにつながるのだと思う。

この作文を書くにあたり、犯罪を犯して刑務所で服役した人たちが出所した後の現状を調べてみた。すると、住む場所がなかったり仕事が見つからないことが多く、社会の中での居場所が無くなり孤立してしまう。それによって犯罪に逆戻りする人が多いこ

堺市立 五箇荘中学校 三年

安原 大晴

とを知った。私は、このような現状に対しても残酷で罪を償った人たちがかわいそうだと思った。しかし、もし私自身が前科のある人々を雇用する立場や部屋を貸す立場にいたら、どうだろう。あまり良い印象を持たず、信頼もできないと考え雇用しないし、部屋を貸すこともしないと思う。現代社会を生きる大半の人々も私と同じ意見ではないだろうか。改めて、出所に再び罪を犯して刑務所に戻る人が二人に一人もいるという現状を知った時、私自身も含めて社会全体の意識の変革が必要だと感じた。

私は、今中学三年生で生徒会の役員をしている。そんな私にとっての社会とは学校である。みんなが通いやすい学校を考えたときに、例えば性別などに関係なく相手を受け入れみんなが仲良くできる学校にすることである。また、強い人は、威張って弱い人をいじめたりせず助けてあげたり支えてあげる学校であって欲しい。また、友人がよくない行動や失敗をしたときにきちんと向き合った上で許してあげることのできる学校がみんなが通いやすく、楽しく安心できる学校につながると思う。このことは、社会にお

いても同じはずだ。犯罪を犯してしまったから社会復帰できないようにするのではなく、そのような弱い立場の人々も社会全体で支えていくことで新しく再出発をさせてあげることがみんな安心して暮らせる社会につながるのではないかと思う。

私が大人になったときに自分も社会の一員として目指していくべき社会について考えてみた。誰もが生きていく上で困難な立場に立たされることがあると思うから、地域や社会全体で見守ったり助ける社会であって欲しい。そして、もしも犯罪を犯してしまった場合も、刑罰を受け罪を償った人が新しく再スタートできるようになって欲しい。犯罪者だからと言って差別せず新しく社会の一員として復帰することを認める社会であって欲しい。その人たちにとって最も必要な住居や仕事を支える取り組みが今以上にもっともって広がって欲しい。中学生の私にも困ったときに相談する友人や親や先生などがいる。一人で抱えていた問題を一緒に解決できるように支えてくれる人たちがいると心強くてとても安心できる。罪を犯したり刑務所に入った人はどんどん周りから人が離れていき、本当に困ったときに相談できる人がいないのではないか。孤独や社会の中での居場所がない人は非行や犯罪に走ってしまうこともあると思う。だからこそ、どんな人でも困ったときには相談できる受け皿を増やして行って欲しい。

この作文を通して学んだことは、私も含めて社会の人たちは罪

を犯した人たちに対して遠ざける心を持っていると認識したことだ。もう少し深く考えてみた。身近な人が犯罪を犯したときに、私はどうすべきだろうか。見捨てたり、縁を切ったりせず、なぜそんなことをしたのか一緒に考えたり立ち直るように応援したりするべきだと思った。これからもきつとニュースや報道などで色々な犯罪を耳に思う。その報道を見たときにその人たちに対する認識をこれまでとは違ってその背景について考えたり、どうすれば同じ過ちをせずにはすむのか考えられる視野を得ることができた。どのような人でも安心して生活を送ることが出来る社会になるように、これからも考え学び続けていきたい。

